

「高校生論文コンテスト 2023」講評

高校生論文コンテスト 2023 では「SDGs で協調する社会—私たちの提案・実践—」というテーマで論文を募集しましたが、北は北海道から南は沖縄まで、全国から 478 件の応募がありました。たくさんのご応募、ありがとうございました。

この 478 件の応募論文を本論文コンテスト審査委員会において厳正かつ公平に審査した結果、学長賞 1 件、優秀賞 2 件、学校賞 3 件が選考され、11 月 10 日（金）に審査結果を本学ホームページで公表しました。

受賞論文と受賞校は次のとおりです。受賞論文については、審査過程で高評価となったポイントを併せて説明します。また、学校賞については、ご指導いただいた先生にも厚くお礼申し上げます。

■学長賞

末長 詩真さん（宮城県気仙沼高等学校 3 年）

「幼少期から始めるジェンダー教育」

今回の 478 件の応募論文の中で、30 件以上がジェンダー・バイアスの問題を扱っており、この問題に対する高校生の関心の高さが窺える。その一方で、問題を自分なりにどう掘り下げるかということになると、なかなか困難であり、その結果、一般的な概要の考察や説明に終始する内容が多かった。そうした中で、当該論文は「ジェンダー・バイアスが幼少期の遊びによって形成されているのではないか」という着眼点から仮説を提示して、「ジェンダー要素を含んだ幼少期の遊びがジェンダー教育として有効である」ことの実証を試みている。インターネット、文献、専門家からの聞き取り調査を参考にして仮説の提示とその実証方法を工夫している点も評価された。

■優秀賞（五十音順）

大嶋 ひなたさん（狭山ヶ丘高等学校 2 年）

「おしゃれ減税」

SDGs の観点から評価すると問題山積のアパレル業界であるが、業界の利益誘導に消費者が乗せられた結果、おしゃれをすることと資源・環境対策が相反する状況に陥ったので、消費税を利用してこの相反関係を修正しようというアイデアである。減税対象のサステナブルなファッションとはどういうものか、素材（天然繊維、化学繊維、リサイクル素材）別に税率を決めることの有効性など、未完成な部分も残されているが、高校生の感覚で「必要だからではなく欲しいから買う」嗜好品としてのファッションを、資源・環境問題の視点から捉え直す機会を具体的に提供している点が評価された。

金野 彩名さん（宮城県気仙沼高等学校 3 年）

「高校生時代に存在した隠れスポットによって気仙沼市の U ターン率は高まるのか」

地方都市の人口流出を抑制するための対策の一つとして、U ターンの促進事業は以前から実施されているが、U ターンを実現するための実利的な誘因ではなく、感情的な誘因に注目

した点に当該論文の特徴がある。その感情誘因を「高校時代の隠れスポット」と具体的に特定して、「地元を離れた若者がポスターや友人との会話をきっかけに高校時代の隠れスポットを追憶する。その場所の現在の様子が気になり地元に戻る。地元の魅力に改めて気づき、Uターンを考えるきっかけにする」という、仮説というよりはドラマの一場面のようなシナリオがアンケート調査で再現できるかどうかを問うことで、隠れスポットがUターンの促進要因となることを検証しようとする試みである。隠れスポットの存在をなぜ高校生の期間に限定したのか、懐かしい気持ちで地元へ帰省することと、それがUターンに結びつくまでの心理的な距離など、素朴な疑問も残るが、地元への愛着がUターンの促進する効果についての分析方法を具体的に提示した点は非常に興味深い。

■学校賞（五十音順）

群馬県立伊勢崎興陽高等学校

狭山ヶ丘高等学校

高崎健康福祉大学高崎高等学校

なお、惜しくも受賞には至りませんでした。次の 11 論文が最終選考に進みました。お名前と論文タイトル等を掲載することで、健闘を称えたいと思います。

■最終選考に進んだ論文（五十音順）

石津 遼さん（久留米信愛高等学校 1 年）

「人はなぜ数学を学ぶのか」

大友 由奈さん（福井県立武生高等学校 1 年）

「伝統工芸技術「金継ぎ」による建造物の維持管理&啓発活動」

澤田 裕翔さん（埼玉県立川口北高等学校 3 年）

「名ばかりの互惠関係とならないために」

高橋 杏さん（狭山ヶ丘高等学校 2 年）

「消費電力削減のための渡り鳥計画」

高橋 心夏さん（宮城県気仙沼高等学校 3 年）

「「懐かしいもの」の持つ力で人の心のケアを行うことは可能なのか？」

西森 志帆さん（関西大学高等部 2 年）

「非常食廃棄の現状と展望—非常食廃棄ゼロを目指して—」

馬場 三由さん（岡山県立岡山芳泉高等学校 3 年）

「歴史は未来を救えるか？」

福田 孝太郎さん（狭山ヶ丘高等学校 2 年）

「ところバスを例とした公共交通機関の活性化」

松井 土勇さん（高崎健康福祉大学高崎高等学校 1 年）

「飢餓への疑問と現実」

安味 佳咲さん（普連土学園高等学校 2 年）

「コーヒーナブルな社会へ」

吉田 康真さん（狭山ヶ丘高等学校 2 年）

「質の高い教育を皆に」